

# 「見て、触れて、感じた感情を大切に」。 地域の宝ものを再発見するサイトへ成長中！

熊本地震発生後、県内は深刻な風評被害に見舞われました。被害が大きくない地域も、ホテルや旅館、レジャーなどの予約のキャンセルが相次ぎ、そのニュースは全国的にも取り上げられました。そうした状況のなか、「熊本の明るい情報」を発信することで、観光業界を元気づけたいと立ち上がったのが、学生団体の「Kumarism(くまりずむ)」です。地震直後の2016年6月からスタートした活動は、今年丸2年を迎えました。

## ライターは全員大学生。 県内各地を飛びまわっています！

「Kumarism」のサイトをのぞくと、あざやかな写真とともに、一人ひとりの飾らない言葉が記事として更新され続けています。ウェブサイトのほか、ツイッターやインスタグラム、フェイスブックなどSNSも展開中。最近ではyoutubeでの情報発信もスタートしたそうです。

「地域と密着したウェブサイトを作ること」を目指していることから、阿蘇や天草など人気エリアの旅行情報はもちろん、熊本市の飲食情報や観光情報など、日常的に役立つ情報もたっぷり！実際に取材先を決め、アポイントをとり、取材や撮影を行っているのは現役の大学生ライターたちです。現地に足を運び、地域の方にちゃんと話を聞き、丁寧に取材したことがしつかり伝わる内容です。大切にしているのは、「自分たちの感性にひびくかどうか」。

代表をつとめる古賀愛深(なるみ)さん(文学部3年生)は、将来は雑誌編集者志望。夢への一歩として、「Kumarism」の活動をスタートさせました。「地域の情報発信も大事ですが、最近は地域との交流を大切にしています」と話します。



## 復興の真ただ中にある熊本で、 いま私たちができること

現地に足を運ぶことで、メンバーの皆さんは、復興真ただ中にある熊本の現状を肌で感じています。「地震直後の取材で旅館の方に予約台帳を見せてもらったんですが、ほとんどキャンセルマークがついていて…。『風評被害』って言葉で理解しているつもりでしたが、実際に目でみて実感しました」と話してくれたのは、久保七海さん(文学部3年)です。また、宮園葉月さん(文学部3年)は阿蘇の取材をとおして地域のおじいちゃん、おばあちゃんと話す機会が増えています。「あえて編集せず、方言などを活かし、地域の方の声をそのまま届けたい」と記事制作のこだわりを語ってくれました。

学生生活という限られた時間のなかで、精いっぱい熊本の情報発信にはげむメンバーの皆さん。一人ひとりが色んな想いでまいている種は、確実に芽を出し、新しい熊本のカケラへ成長していくことでしょう。

Kumarism 検索



## HUMAN ～復興に携わる人～

### 釧路市役所から熊本市役所へ

みやこむつみ

宮古睦さん(熊本市 都市建設局 建築住宅部 営繕課)

### 「熊本の人たちとともに、復興を支え続けたい」



今春から市営繕課の任期付き職員として働いている宮古睦さん。実は、宮古さんの地元は北海道。3月末まで釧路市役所に勤務していました。東日本大震災後は宮城県に災害派遣され、仮設住宅建設に携わった経験も。元々「人の役に立ちたい」という気持ちが強く、東北の復興を見届けられなかったことの後悔が大きかったと語ります。

2016年4月に熊本地震が発生。その年の10月から2ヵ月間、家屋の応急修理の補助申請を受け付けるチームに加わりました。混乱の最中、業者との小さな交流がきっかけとなり、宮古

さんの人生が大きく変わっていきました。「業者さんに送る書類に短い手紙をつけていました。『お体に気をつけて』『きっと復興の道が開けますよ』など簡単なものでしたが、何かエールになれば」と。実際の言葉に勇気づけられた職人も多く、やりとりをとおして宮古さん自身も「本当にやりたいこと」を再確認することに。「熊本の人たちの熱さに感化されたかな(笑)」。

地震後、熊本市には全国421自治体から約75,000人が派遣されましたが、市の職員に転身したのは宮古さんのみ。「もう後悔しないように、このまちの復興を最後まで支え続けたいです」。

## WORK ～復興支援～

### マラソンの伴走のように 同じゴールを目指していく

ばんそうがた

### 熊本市伴走型住まい確保支援室

プレハブ仮設住宅やみなし仮設住宅などに入居され、「住まいの再建」に支援が必要な世帯について、現在の住宅の供与期間が終了する前に、1日も早く恒久的な住まいの再建ができるよう、きめ細やかな支援を行っています。

#### 具体的には？

- 希望に応じた物件情報などのご案内
- 物件の購入や売却等に関する相談
- 入居に関する手続きなどのお手伝い
- 相談内容により行政部署や関係機関へつなぐサポート
- 各種支援制度などのご案内

「不動産知識を持った20代から60代までのスタッフが、一人ひとりの『住まいの再建』を全力でサポートしていきます。一番大事にしているのは、ご相談いただいた方の希望に添った支援を行うことです。住まいが決まった際に『決まったよ』とご報告していただける例も多く、本当にうれしいですね。」



責任者の佐藤貴紀さん(中央)

私たちが住まいの再建を全力でサポートします！

お問い合わせ／熊本市伴走型住まい確保支援室(本庁舎13階) ☎096-328-2983